

平成29年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会 会議要旨

<開催日>

平成29年11月21日（火）

<場所>

新宿区役所本庁舎5階 大会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（24名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、馬場章夫、島田治、佐藤陽一、安齋正義、吉田淳子、今井康之、金谷ゆか、海東和貴、早川美奈子、太田正一、的場美規子、李承珉、山本芳裕、佐原たけし、久保広介、吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男、三井梨紗子

事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長（地域振興部長）、浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

<開会>

【座長】

ただ今より、第2回新宿区東京2020大会区民協議会を開催させていただきます。

それでは、次第に沿って進行を進めさせていただきます。

本日の議題は3つであり、新宿区東京2020大会区民協議会合同部会の報告について、東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の取組みについて、アンケート結果についてでございます。この3点についてご審議をお願いします。

まずは、新宿区東京2020大会区民協議会合同部会の報告についてです。

9月11日に、本協議会の東京2020大会普及啓発部会及びボランティア部会の合同部会が開催されました。合同部会においては、新宿区第一次実行計画素案におけるオリンピック・パラリンピック関連事業について、そして組織委員会や新宿区におけるボランティアについての意見交換が行われました。こういった意見が出されたのか、事務局よりご報告ください。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

それでは、ご説明させていただきます。

資料1「第1回新宿区東京2020大会区民協議会合同部会における意見及び回答要旨」をご覧ください。

先日、東京2020大会普及啓発部会とボランティア部会を合同開催させていただきました。

この中で、新宿区第一次実行計画素案における東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業に関するご意見を伺いました。いくつかのご意見を分野ごとにご紹介させていただきます。

まず、普及啓発に関するご意見です。情報発信の仕方やPRをもう少し工夫できないかとい

うご意見がございました。それから、実行計画素案に示されている事業経費についてもご指摘をいただきました。補足させていただきますと、実行計画の中で普及啓発としてお示ししている部分は、大会の気運醸成のイベント経費と新宿区東京2020大会区民協議会の運営経費として計上しているものです。今後、この協議会の中で、こういった取組みを実施したらどうかといったご提案をいただきながら、予算編成のスケジュールも意識して進めていきたいと考えています。

続いて、スポーツに関するご意見です。区の施設を練習会場として提供したらどうかというご意見をいただいています。こちらについてですが、現在、新宿スポーツセンターと新宿コズミックセンターがバスケットボールの練習会場として立候補しているところですが、組織委員会が練習会場を決定するまでにまだ時間がかかっているという状況です。

また、箱根山地区の多目的運動広場の整備についてもご意見をいただいています。こちらは、第一次実行計画の中の計画事業として位置付けており、今後、都と協議をしながら進めていく予定です。

それから、区の様々な事業やイベントについて、新宿スポーツセンターや新宿コズミックセンターで実施することが多く、他の地域から参加しにくいというご意見をいただいています。この辺りについても、今後の事業展開の中で参考にさせていただきたいと考えています。

続いて、教育に関するご意見です。

英語キャンプの事業について、もう少し効率のいい普及啓発ということが考えられないかというご意見をいただいています。その一つのご提案として、英語スピーチ大会の実施というご意見をいただいたところです。

また、女子のスポーツ実施率が低いというご指摘があり、女子にアピールできるような企画等を考える必要があるのではないかというご意見をいただきました。

続いて、文化に関するご意見です。こちらについては、子どもたちへの体験だけで終わらせるのではなく、その後どうつなげていくかが重要ではないかというご指摘をいただきました。

また、新宿区に通訳案内士はどれぐらいいるかというご質問をいただきましたが、後日お調べしたところ、東京都の通訳案内士の登録者数は7,500人程度でした。区市町村別の集計はしていないということでしたので、新宿区内の登録者数はございません。

続いて、観光に関するご意見です。こちらについては、情報発信やPRの仕方について工夫をというご指摘をいただきました。

続いて、産業に関するご意見です。専門学校が多いという新宿区内の特徴を踏まえ、アニメ関係や、印刷製本などの地場産業をつないだ取組みができないかというご意見をいただきました。

続いて、ボランティアについてです。現在、東京2020大会のためのボランティアとしては、組織委員会が募集する大会ボランティア、東京都が募集する都市ボランティア、合わせて9万人程度について、来年の夏頃に募集が始まります。例えば、都市ボランティアの場合5日間以上活動できることが要件になっていますが、そこまでのボランティア活動が難しいという方の

受け皿としてももう少し気軽に参加できるボランティアのしくみを検討したいと考えています。現在、ボランティアの役割分担などについて東京都と調整を行っているところですので、そういった情報も共有させていただきながら、ボランティア部会の中で具体的にどういったことができるのかということは今後検討していただきたいと考えています。

説明は以上です。

【座長】

ありがとうございました。

多くの委員の方々から闊達な意見が出されたようです。

各部長から一言ずつお言葉をいただきたいと思います。

【鈴木部会長】

短い時間の中でたくさんのご意見が出され、非常に驚きました。

少し抽象的になりますが、気づいた点をいくつかお話させていただきます。

恐らく東京2020大会に向けて、各区で色々な事業を展開していくのだらうと思われまふ。そして、どこも同じようなことをやっているのだらうと思ひます。そういう中で、新宿区らしさというものをどうやってアピールしたらいいのだらうかということ、合同部会を通じて思ひました。スポーツや産業、文化、教育、それぞれの分野の中で、新宿区らしさというものを検討したいと感じました。

それから、それぞれの団体で色々計画を練りながら取り組まれていることと思ひますが、新宿区をはじめとして、横の連携というものをこれから模索していく必要があると感じました。

それから、取組みを打ち上げ花火的に終わらせずに、今後に向けて持続させていくにはどうしたらいいか、もう少し考える必要があるのではないかと思ひます。先ほど、ボランティアの件で新しい情報が入りました。話を聞いていて、率直なところ、東京都や組織委員会の受け皿という点が少し気になりました。逆に言うと、新宿区から自発的に取り組めるような仕組み、皆様方が行っている事業を支援していくようなサポーター制度、ボランティア制度といったものを新宿区独自で立ち上げてもいいのではないかなということ、このアンケートを見ながら思ひていました。そういったことも含めて、今後検討していくことが色々あると思ひます。

【渡邊部会長】

合同部会で出たたくさんのご意見を受けて、私が思ったのは、情報の発信について各団体で精いっぱい取り組まれているが、この協議会を通じて情報の共有をしたうえで新宿区と合わせた形の情報発信を行わないと、区全体にはなかなか広まっていけないのではないかとこのことです。これだけ活発な意見も出ていますので、今後、また部会のほうで、より深い形で話を進めていければいいと思ひています。

【座長】

ありがとうございます。

委員の方々から何か補足等ございますでしょうか。特によろしいでしょうか。

それでは、2番目の議題に移らせていただきます。

東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の実施についてです。

7月に開催された第1回のこの協議会では、新宿区における東京2020オリンピック・パラリンピックに関する事業展開をご説明させていただきました。先日の10月28日は大会開催1000日前に当たり、各地で記念イベントが行われ、新宿区においてもその記念イベントが開催されました。まだ年度が終わっていませんが、中間報告的な形で大会の気運醸成に関する区の実施について事務局のほうからご説明をいただきたいと思っております。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

それでは、ご説明いたします。資料2「東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の実施について」をご覧ください。

前回の第1回目目の区民協議会は7月18日に開催しておりますので、それ以降に実施した取り組みをご紹介します。

まず、8月3日に開催した映画「東京オリンピック」の上映会です。1964年の東京オリンピックの映画の上映ですが、映画そのものが3時間近くにわたる長編映画でした。映画の上映前に村岡先生に講演をしていただきまして、近代オリンピックの誕生から現在のオリンピックをめぐる問題など、幅広くご講演をいただきました。

また、本上映会については、区立の幼稚園、小・中・特別支援学校の先生方の研修の一つとしても位置付けましたので、先生方も100名お越しいただき、参加者は全部で200名に上りました。参加者アンケートでは、「オリンピックの歴史や内容、その意義について考えることができた」「早稲田大学の取り組みが紹介されたので私たちもできることをより明確にして実現していかなければならない」「歴史あるオリンピックを生徒たちに伝えていきたい」といった感想が聞かれたところです。

次に、10月28日に開催した東京2020オリンピック・パラリンピック1000日前記念イベントでございます。会場は新宿コズミックセンターで、800名の方にご来場いただきました。

こちらはスポーツの体験イベントで、サッカーや走り方、シンクロ、空手、チアの体験教室を行いました。みんなが楽しめるよう多様な体験メニューを用意したところ、参加者数は男子より女子のほうが少し多いという結果でした。各競技の第一線で活躍をしたアスリートの本物の技を間近で見ていただくという良い経験の場になったのではないかと考えています。

また、早稲田大学のチアリーダーFALCONSに、体験教室だけでなくイベントの運営全体にも関わっていただき、各教室の指導やサポートを手厚く行っていただきました。

このイベントの中には、体験教室のほかにも自由に参加できるコーナーとして、フォトコーナーやボルダリングコーナーを設置しました。

アンケートからは、「プロの選手に教えてもらえてよかった」「フォトコーナーで撮影した写真をはがきにしてもらえてよかった」といったご感想が聞かれました。

また、11月19日には、パラリンピック1000日前を記念して、パラスポーツチャレンジ in 新宿というパラスポーツの体験イベントも実施したところです。種目としては、車椅子バスケット、車椅子ラグビー、義足体験、ボッチャ、コーディネーショントレーニングという5つの種目の

体験イベントを実施しました。

続いて、デイカウンターを設置です。既にご覧いただいた方もいらっしゃるかもしれませんが、区役所本庁舎と新宿コズミックセンター、新宿スポーツセンターの3か所で、65インチの大型のデジタルサイネージをデイカウンターとして設置しています。特別出張所と信濃町駅については、まだ設置していませんが、順次設置をする予定で進めています。特別出張所については、スペースの都合上、40インチ以下のやや小さめのサイズを設置する予定です。

デイカウンターですが、単に日数をカウントするだけではなく、区民参加を一つのコンセプトとし、デイカウンターの画面上に区民の皆様にご登場いただこうと考えており、その仕掛けとして、オリンピック1000日前記念イベントで実施したフォトコーナーで撮影した区民の方の写真を表示していく予定です。

また、フォトコーナーについては、今後、若者のつどいやはたちのつどいといったイベントにも展開し、区民の方々の写真を撮影していきたいと考えています。本日の会場にも設置させていただきましたが、聖火台、表彰台、ウエイトリフティングの3種類を作成しています。表彰台の絵については、右奥に国立競技場のような建物があったり、ホテルグレイスリー新宿にあるゴジラヘッドがあったりと、新宿らしさを演出したつくりになっています。

デイカウンターについては、今後、区が実施するオリンピック・パラリンピック関連事業でもPRしていきたいと考えています。

最後に、組織委員会で運営している東京2020参画プログラムについてです。この参画プログラムとして区が認証を取得した事業は、今現在24事業ございます。区の事業のほかにも、非営利団体の実施する事業であればこの参画プログラムの認証を取得することができますので、ぜひこういった仕組みを活用していただきたいと考えています。ほかの地域でも自治体以外が実施している取り組みというのはあまり事例が多くないのですが、例えば、地域の運動会や音楽祭、大学が実施する体験イベント、俳句・短歌・囲碁等に関するイベントといったものがこの参画プログラムの認証を取得して実施しています。ぜひ皆様にも、こういった関連事業がありましたら認証を取得して取り組んでいただきたいと考えています。手続きについては、事務局でサポートさせていただきますので、何でもご相談ください。

説明は以上です。

【座長】

ありがとうございました。

委員の方々から何かご意見あるいはご質問等ございますでしょうか。

【委員】

今、課長からご案内があったオリンピック1000日前記念イベントとパラリンピック1000日前記念イベントに親子で参加させていただきました。吉本興業のタレントさんたちが盛り上げてくださる中、アスリートの方々から直接指導を受けるということがすごく貴重な体験でして、親子でとても楽しむことができました。

ただ、オリンピック1000日前記念イベントの中で1つ残念に思ったことを申し上げますと、

せっかくのイベントなのですが、受付がある2階に上がらないとイベントを行っている雰囲気が伝わらないということです。例えば、新宿コズミックセンターの外壁に懸垂幕を掲げる、1階にフラッグやバナーといった装飾を施すなど、会場となる施設全体で雰囲気づくりを行うといったことで、明治通りの通行人の方々でもオリンピック1000日前だということが分かるような会場づくりをされたほうがよろしいのではないかと感じました。

パラリンピック1000日前記念イベントについては、スタッフの方々が1階ロビーから2階の会場までご案内してくださったり、1階ロビーにはデイカウンターが設置されていたので、会場づくりに工夫がされていた印象でした。ただ、来場者が非常に少なかったように感じましたので、もしお分かりでしたら来場者数などを教えていただけますでしょうか。

【座長】

ありがとうございます。

質問あるいはご意見が2点ありました。1点目は会場づくりについて、オリンピック1000日前記念イベント当日に会場の2階に行かないとなかなかイベントを行っているということが分かりにくかったということ。

それから、2点目はパラリンピック1000日前記念イベントの来場者の数がどうだったかということ。いかがでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

貴重なご意見ありがとうございます。

オリンピック1000日前記念イベントは事前申し込み制であり、事前に申し込まれた方がお見えになるイベントという認識があったもので、会場全体の雰囲気づくりというところにまで考えが及ばなかったところがございます。今のご指摘は反省すべき点として、今後のイベントの際には、そういった会場全体の雰囲気づくり、こういったイベントを行っているということが会場の外にも伝わるような会場づくりをしていきたいと思っております。

【生涯学習スポーツ課長】

パラリンピック1000日前記念イベントですが、非常に寒い日であり、当初の出足が非常に少なかったのですが、午後にはご来場者も増えてきました。こうしたイベントに関心を持ってくださる方が少ないのではないかとという危惧もあり、全小・中・特別支援学校にご案内をさせていただきました。来場者数は現在集計中ですが、大体250人から300人だと思われそうです。参加者の皆様には、非常に良い体験ができた、様々な種目を自由に体験できてよかったというご意見をいただいております。

それから、会場である新宿コズミックセンターの照明が少し暗いと感じました。こちらについては、全体に照度を落としているところで、その点とイベントの盛り上げ感という点がなかなかマッチしないということがありました。この点についてはご指摘を頂戴しているところで、今後の課題とさせていただきます。

【座長】

ありがとうございました。

貴重なご意見だと思います。今後のイベントに向けて、ぜひ事務局のほうでご検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

デイカウンターですが、本日、区役所本庁舎に設置してあるデイカウンターを拝見しました。今後、特別出張所にも設置されるということで期待しています。

それで、このフォトコーナーですが、私も重量挙げの写真を撮っていただきました。実際にやってみると結構楽しいので、今後各イベントで展開されると思いますが、できれば全地区回っていただきたいと思います。ちょうど昨日、柏木地域センターまつりがあり、約2,000名の方にご来場いただきました。こういった地域のイベントにフォトコーナーがあれば、地域でもオリンピック・パラリンピックを身近に感じて盛り上がっていきけるのではないかと思います。まだ期間がありますので、今後色々なイベントで使っていただきたいと思います。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

非常に有難いご提案です。本年の地域センターまつりには出展が間に合わなくて大変申し訳ございません。来年以降の地域センターまつりには、こういったコンテンツを展開させていただきたいと思います。約2,000名の来場者の方に対してPRできれば、非常に大きい効果が得られると思いますので、ぜひ地域センターまつりを始めとした地域のイベントに出展させていただきたいと思います。

また、今年度中でも取り組める部分についてはできるだけ対応させていただきたいと思います。こういったイベントに出たらいいのではないかと、私たちのイベントに来てほしいといったご提案がございましたら、ぜひこの会議の後でも、また後日でもご提案いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】

今のご意見、大変ありがたいので、そういうイベントに出展するということ、各地域団体にご周知していただけると利用が広がるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

【座長】

ありがとうございました。

ほかに何かご意見、ご質問等ございますか。

【委員】

まず、映画「東京オリンピック」ですが、上映会が好評だったということですので、もし著作権の問題がクリアできるのであればユーチューブで公開して、若者等より多くの人が見ることができるようになっていただきたいと思います。

また、前回のオリンピック自体約50年前のイベントであり、やはり外国人の方はよく分からないということもあるので、字幕も付けてユーチューブで公開すれば、世界の多くの人々が見られるのではないかと思います。

それから、デイカウンターですが、公共施設だけでなく、民間の参加が大事だと思いますの

で、新宿区内にディスプレイを設置している民間企業の協力を得てカウントダウンを行うなど、積極的に区から民間の協力を得られるよう働き掛けを行っていただきたいと思います。

【座長】

ありがとうございます。

2点ございましたが、映画「東京オリンピック」上映に関して、新宿区がユーチューブにアップできるかどうかというのは難しいかもしれませんが、どのようにお考えかということをお聞かせいただければと思います。

それから、民間の協力を得たデイカウントということですか。

この2点について、いかがでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ご意見ありがとうございます。

まず、1点目の映画「東京オリンピック」でございますが、こちらは東宝の映画です。映画上映会の際は、35ミリのフィルムを持ってきていただいて、映写機を2台でフィルムを交互に回し、昔の映画館のような形で放映していただきました。

やはり著作権の関係上、区がユーチューブで公開するというわけにはいきませんが、こういう映画があるということは今後PRしていきたいと思います。また、組織委員会や東京都が作成したオリンピック・パラリンピックの啓発動画をデイカウンターで放映するなど、様々なPR活動をしていきたいと考えています。

それから、街頭ビジョンについてですが、新宿駅周辺に様々な大型ビジョンが設置されています。その中には、一定枠を行政側がお借りして行政情報の映像を放映しているものもあります。そういったものを活用しながら、オリンピック関連の事業についても周知できるよう、今後調整をさせていただきたいと思います。ご提案ありがとうございます。

【座長】

ほかにもございますでしょうか。

【委員】

私もいくつか色々な区のイベント等に参加させていただきましたが、印象として控え目、もう少し厳しい言い方をすれば地味という印象が先行してしまっているように思いました。

気運醸成に関して、2020年をゴールとすると、区にとっては新宿区のPRということが重要な観点でもあると思いますし、企業としては来街者の増加、要は集客性というところがゴールのイメージに近いのではないかと思います。

そういう意味では、これからの2年間、どういうプログラムを組んで、どんなところを巻き込んで、どんなふうにお金を使ってやっていくか、そういったことがきちんと目に見える形になることが今一番必要なのではないかと思います。

例えば、民間施設の一角を使ってPRしていくとしても、なかなかすぐにはできません。半年後に1つのスペースを使って気運醸成のイベントを行ってみるとしても、イベントの展開の先にストーリー性がないと、企業としても参画しづらいと思います。この後、どういうプログ

ラムで、どんなタイミングでどんなことをしていこうかといったところを目に見える形でご提案いただければ企業側としては参画しやすいのではないかと思います。ぜひこの後の2年間のプログラムに期待したいと思います。

【座長】

ありがとうございます。

事務局から、今時点で答えられることがありましたらお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ありがとうございます。非常に重要な視点だと思います。

区が実施するイベントですと、なかなか内容が地味であったり、多彩な事業展開が難しかったりという面があり、今後、東京2020大会普及啓発部会などでご議論いただく中で、皆様のお知恵をいただきながら、どこで、だれを対象に、どういったことを行うと一番効果的かということを確認しながら、効果的に事業を推進していきたいと考えています。

【座長】

オリンピックまで3年弱となり、今、委員からご指摘のあったようなことをこの会議の中で検討していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

ほかにもございますでしょうか。

それでは、次第の3、アンケート結果について、に入りたいと思います。

先日、各団体の活動状況や東京2020大会を契機とした取組みについて、各委員にアンケートをさせていただきまして、ご回答いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

まず最初に、どういう経緯でこういったアンケートを実施したかということについて、事務局からご説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

今回、アンケートを実施した趣旨ですが、これまで、この区民協議会及び合同部会の中では、区の実施する取組みに対して皆様それぞれのお立場の視点からご意見を頂戴してきました。これから2年半先の東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向け、各団体の皆様の中でどういった取組みができるか、例えば来街者を増やしていくためにどういった取組みを考えているかといったことも含め、今現在どういうことに取り組み、これから先どういった取組みを考えていて、その取組みを進めるに当たってどういうことが課題になっているかということをお互いでも情報共有をしていただきたいと思います。こういったアンケートをとらせていただいたところです。

こういった趣旨を踏まえ、基本的には団体推薦の委員の方を中心にお答えをいただきましたが、審議会推薦の委員の方にも、自由意見欄についてご回答いただいています。

説明は以上です。

【座長】

ありがとうございました。

それでは、このアンケート結果を基に審議を進めていきたいと思っています。

時間の制約もありますので、各委員の回答内容のうち、ポイントとなるような項目を私のほ

うで抽出させていただき、それについて各委員に補足説明等をお願いしたいと思います。

まず、新宿区町会連合会に所属する委員からお願いします。

新宿区町会連合会は、区内の町会・自治会組織の連合会ということで、団体の強みとしては、生活に密着した活動ができるというところ、そして今回のオリンピック招致では上部組織の東京都町会連合会の働き掛けで85万人の署名を集めることができたといったところです。

オリンピック・パラリンピックを契機とした取組みに関しては、まだ団体として話し合いはできていないということでございます。

自由意見については、民泊ということを挙げていらっしゃると思います。民泊に関して、これまでに何かトラブルなどをご経験されていらっしゃるのでしょうか。

【委員】

現在、地域では民泊が先行していますので、ごみや騒音で苦情が出ているというようなお話は聞いています。新宿区で立ち上げている民泊問題対応検討会議において新宿区独自のルールが策定されるということですので、それに期待しています。民泊が円滑に行われれば良いと思っています。

【座長】

ありがとうございました。

区の取組みということでは、この民泊に関して何かほかにごありますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

新宿区としては、平成28年10月から新宿区に民泊問題対応検討会議を設置して、民泊に関するルールについて検討してきたところです。今年の11月15日まで6回にわたって検討をしまして、先般、報道されていますとおり、新宿ルールの条例化に向けて取り組んでいくところです。

例えば、月曜日から木曜日までは禁止をする、民泊の場所や事業者の連絡先をホームページで公表するといった一定の制約の下に運用していくルールづくりを進めています。

こうした民泊の問題や、実際に大会が開かれたときの交通の問題、ごみの問題、治安の問題など、大会に関連した影響というものが民泊の問題に限らず色々と考えられるかと思えます。そういったことについても、区民の方に十分説明していく必要があると思っておりますので、何か不安な面などございましたら、ぜひご発言いただければと思っております。

【座長】

ありがとうございます。

大会の開催に伴い、当然観光客の増加が大幅に見込まれるという状況で、その中に外国人の方々が多数いらっしゃいます。宿泊施設を増やすということは必須の状況ではありますが、関係者の合意形成が図られた上で、新宿区にふさわしいルールづくりについて、ぜひ今後も引き続きお考えいただければと思えます。

次の委員のアンケート結果に移らせていただきますが、本日欠席ということですので、私のほうでポイントのみをご紹介をさせていただきます。

こちらも新宿区町会連合会に所属する委員です。特に、個別の町会としてのお立場でご回答

いただいています。活動内容としては、民有灯の点検及びパトロール、清掃、資源回収、年末パトロールなど、地域に密着した活動を行っておられます。

そして、町会として若い会員が少しでもスポーツに関われるような取組みをしたいということで、それを受けた具体的な取組みとしては、スポーツ推進委員会等の協力を得て、ニュースポーツの体験等の行事を行うということを上げていらっしゃいます。特に、若い方への働き掛けということを重視されていると思っています。若い町会委員への働き掛けに関しては、町会・自治会の活動全体にもプラスの影響があると思いますので、スポーツを通じて、町会・自治会活動全体の活性に波及すればいいのではないかと感じました。

次の委員のアンケート結果に移らせていただきますが、こちら本日欠席ということですので、私のほうでポイントのみをご紹介しますさせていただきます。

こちらは、新宿区商店会連合会に所属する委員です。新宿区商店会連合会は、都内で一、二を競う商店会連合会であるということで、区内の89商店会、4,512店の事業所、41社の大型店を会員とする団体であるということです。

オリパラを契機とした取組みに関しては、応援セール、商業祭、商店会街路灯へのフラッグバーナー掲出などを挙げていらっしゃいます。それを受けての具体的な取組みとしては、都や区からの財政面の援助、フラッグバーナーの掲出要請を挙げていらっしゃいます。

事務局から何か補足はございましょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

商店街の装飾については、オリンピック・パラリンピック関係では今現在はなかなか難しい状況です。組織委員会の定める制約の中で装飾をすることになりますので、例えば、お店の名前や商品名、企業名といったものが表示されている近くに大会のエンブレムやオリンピック・パラリンピックという文言を表示することができないなど、一定の制約の下、どこまでできるかを探りながら、今後検討していく必要があるかと考えています。

【座長】

今、事務局から商店街の装飾に関するご回答をいただきました。商店街のにぎわい、ひいてはまちのにぎわいに直結することですので、大会と一体的に新宿区を盛り上げていけばいいと感じています。ありがとうございました。

次の委員のアンケート結果に移ります。

こちらは、東京商工会議所新宿支部に所属の委員のもので、こちらの団体は区内5,000社の会員ネットワークがあるということです。地域活性化により中小企業の活躍が実現できればよいとお考えでいらっしゃいます。それに向けた具体的な取組みとしては、海外からの旅行者等に新宿を楽しんでいただくということを挙げていらっしゃいます。また、新宿区における訪日外国人観光客への災害時初動マニュアルを作成することです。特に観光の観点の取組みを挙げられており、そこからの経済効果を期待されているようです。

海外からの旅行者の方々に新宿を楽しんでいただくということについて、具体的なお考えはお持ちなのかどうかを少し教えていただければと思います。それから、マニュアルの作成につ

いて、どういった経緯でそのようなことをお考えになったのかということについてもお聞かせいただけますでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。

私たちは、新宿における訪日外国人観光客の災害マニュアルを作成し、配布をいたしました。こちらは、今現在こういった形で一元化した指導要領がないということで、全てのことについてカバーしているわけではありませんが、特に繁華街又は中小施設における一つのやり方というものを我々のほうでお示しをしたものです。各自がそれぞれに活動したり、指導したりすることによる地域的な混乱を避けるために作成したもので、既に配布を終了しました。これから先、大会が近づいてくれば、色々な情報も精査できますので、更に進化したものができるのではないかと思います。

それから、地域の活性化についてですが、1つは、新宿というと新宿区駅周辺については皆さんご存知だと思いますが、実は35万人も人が住んでいて、各地域には製本や、印刷、染色などの地場産業があります。最近では、落合地区の染の小道がありますが、高田馬場地区にある茶道会館など、身近に日本の文化を楽しんでいただけるような施設が新宿区には比較的多いということがあります。我々としては、中小企業のネットワークを利用して、新宿に来る皆様に日本の和文化を発信させていただければと思っています。それから、商工会議所の場合は規模の大きな事業者も加入しています。大会のオフィシャルスポンサー以外の企業については色々制約が多くて、商工会議所に加入している事業者がそろって手を挙げるとするのはとても難しい状況です。ただ、地域で取り組んでいくということであれば、ぜひ当所としても協力したいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

【座長】

ありがとうございました。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思いますが、本日欠席ということですので、ポイントだけご紹介させていただきます。

こちらは、東京青年会議所新宿区委員会に所属の委員のものです。25歳から40歳までの青年経済人として、問題の解決や、行政や地域と一緒に運動しているということです。また、地区委員会ができて44年目を迎えたということで、地域に根差した運動を行ってきており他団体とのつながりも多くあるということ、青年等が多く在籍しているということです。大会を契機とした取組みについては、東京としての新たな価値の創造を挙げており、世界に対してオリンピック・パラリンピックは絶好のPRの場であるとお考えです。それを受けての具体的な取組みとしては、ロンドンアンバサダーに着目し、一般ボランティアを育成することに注力していきたいということです。ボランティアがいないと、オリンピックもパラリンピックも全く動かないというのが現実ですし、ボランティアに関しては、大会後も残るレガシーの1つだと思いますので、今後、ボランティア部会においてより具体的な話をさせていただきたいと思います。

ロンドンアンバサダーについてはご存知の方も多いとは思いますが、事務局から少しご説明

いただけますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ロンドンアンバサダーですが、ロンドン2012大会におけるいわゆる都市ボランティアであり、およそ8,000人の方が登録されて活動されていたということです。国内外からの観光客を対象として、観光案内や大会会場までの交通案内、最寄りのお店やトイレの案内、大会期間中の各種イベントの案内といったものを担ったボランティアの方々を、ロンドン大会についてはロンドンアンバサダーと名付けて活動していました。

【座長】

ありがとうございます。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿観光振興協会に所属の委員で、協会の立場と一企業としての立場と、それぞれからご回答いただいています。今回は一企業としてのご回答を取り上げたいと思います。

こちらは、全国各地に店舗を展開されている企業でございまして、その中でも、新宿店への来年客数は年間220万人、東京ディズニーランドの来園客数と同じレベルだということで、これは大きな強みであると感じます。

大会を契機とした取組みについては、集客を図って売上げを上げる、大会の周知・告知などを通じて区・都の活動に貢献する、まちのメンバーと協働し、新宿のまちの競争力を上げる、といったことを挙げていらっしゃいます。それを受けた具体的な取組みとして様々なことをお考えで、その具体的な取組みを進めるに当たって、いくつかの点がネックになっているということです。この点に関して、委員から何か補足的に説明することはございますでしょうか。

【委員】

取組みを進めるに当たっては、様々な制約があるかと思いますが、実施できることは限られてしまうと思います。先ほど、大会の気運醸成に関して意見を申し上げましたが、やはりスケジューリング的なものが今のところは大変重要なのではないかと考えています。何を行うにしても、準備が整いませんと会場も確保できません。また、何かものを作るにしても時間が必要であり、そういうところが重要だと思います。

【座長】

ありがとうございます。

こちらについては、新宿区として何か現時点でもまちを挙げての施策などはあるのでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

観光という観点でございまして、新宿区としても、2020年を一つの契機と捉えて、ハードとソフトの両面から様々な取組みを進めています。ハード面では、新宿駅周辺の整備や東西自由通路の整備などがあります。また、新宿通りの車道の一部を「SHINJUKU TREET SEATS」として休憩スペースを設け、まちの中で少し休めるような、回遊性を高める取組みも行っています。ほかにも、Wi-Fiスポットの拡充なども進めています。

ソフト面では、観光情報の発信の事業も進めており、例えば、外国語での短いPR動画を作成して、海外へ向けて発信をするといった取組みがございます。このように、ハードとソフトの両面から進めているというような状況です。

【座長】

ありがとうございます。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿未来創造財団におられる委員の回答です。新宿未来創造財団では、新宿区民を始め、都民に対して歴史・文化・芸術・スポーツなどの生涯学習の機会を提供するという活動をされているということです。団体の強みとしては、公益法人であるということを挙げていますが、逆に公益法人としての制約という問題があるということもおっしゃっています。この点について、もう少し少しご説明をいただけますでしょうか。

【委員】

公益法人であることのメリットとデメリットですが、公益法人ですので、区からの出資を受けて活動している団体です。そのため、生涯学習の分野において区と協議しながら進めていくという安定性という点では、強みを持っていると認識しています。一方で、民間だからといって自由度があるわけではなく、経費の使い方に制約があります。ただ、その点をデメリットとすることなく、区と十分に協議していきながら柔軟に活動していきたいと考えています。

【座長】

ありがとうございます。

公益法人であるということの強みを生かしつつ、従来からの取組みをより推進していただきながら、新たな展開に期待したいと思います。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿区体育協会に所属の委員のものです。団体の強みとしては、38団体、約2万人の登録を得ているということであり、スポーツ事業へのアドバイスや役員及び人材の派遣を行うことができるといったことが挙げられています。

大会を契機とした取組みに関しては、新宿区民の多くの方が年齢を問わずスポーツに興味を抱き実施して下さるということ、そして健康な生活を送っていただくということを切望されていらっしゃいます。それを受けての具体的な取組みということについては、現時点では新宿区体育協会としては大きな取組みや事業の実施予定はないというものの、できるだけ新宿コズミックセンターや新宿スポーツセンターを日本の選手や他国の選手たちに練習会場として開放したいということです。こちらは、練習会場として開放することで多くの区民、特に子どもたちに見ていただきたいということを挙げていらっしゃいます。協会として人材の派遣も積極的に行っていきたいということのようでして、この点について、委員から何か補足等あればお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

【委員】

体育協会と聞くと、新宿区のスポーツ関係、例えば色々な大会の実施、ジュニアやシニアの

育成、区民へのスポーツの普及まで全て担っていると考えるのは当然のことだと思います。事実、東京都体育協会や一部の区市町村の団体では、そういった事業を区と直接、色々な形でもって提供しています。ただ、新宿区体育協会においては、行政のほかに一部の事業を委託されて運営している状況であり、各団体における運営というのはそれぞれボランティア的に行っているのが現状です。ボランティアで集まった役員が、体育協会でもた更に集まっているという状況で、各団体においては、区の事業全般のことまでを考えるとというのは非常に難しくなっているのも現実です。ただ、協会としては、区の行政のこと、また色々な形での活動に向けて、様々な形でサポートしたり、実施できることは実施したいと考えています。特に、ジュニアやシニアの育成団体については、各団体に対し声を大きくしてお願いをしているところです。

そういったところもございますので、具体的に何ができるか、今後こういう形で実施するという事を申し上げるのは少し難しいところがありますが、ただ、やはり2020年に向かって、我々として、スポーツ団体としては何かをしなければいけないという使命を感じているのも事実です。この点を踏まえて、今後各団体に協力を仰ぎ、かつ様々な意見をいただき、具体的に実施できるものを検討していく所存です。少々時間はかかるかもしれませんが、そのような団体であること、そのような気持ちであることを皆さんもご理解いただければと思っています。

【座長】

ありがとうございます。

それで、今お話がありました、新宿コズミックセンターや新宿スポーツセンターの練習会場としての利用については、いつ頃判明するのかなどについて、事務局からご説明いただけますでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

新宿コズミックセンターと新宿スポーツセンターをバスケットボールの練習会場としてエントリーをしているところです。本来であれば、組織委員会から今年の夏頃までに結果が通知されるという話だったのですが、現時点でまだその結果が出ていないという状況です。引き続き、組織委員会からの情報収集に努めていきたいと思っています。

【座長】

ありがとうございます。

今後、自分たちが何をしたいか、自分たちで何ができるかという点について検討していくことでございますので、その内容についてもこの協議会において今後協議させていただければと思っていますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿区社会福祉協議会の委員のもので、団体の主な活動としてはボランティアに関する取組みを挙げていらっしゃいます。大会を契機とした取組みに関しては、区内小中学校で実施されている福祉体験学習の機会や、通年で紹介している体験ボランティア活動の機会、ボランティア活動の周知に協力していきたいということです。ただし、どのような活動が求められているのかという部分がまだ明確でないということです。

委員から何か追加でご説明することがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

社会福祉協議会では、今、小中学生や高校生などの若い方に対し、色々な機会でもって福祉教育をさせていただいています。直近で言えば、戸塚地区において、お子さんたちが福祉教育を受けて、おたすけマークといって、障害をお持ちの方を助けるという趣旨のバッジを作成するなどの事例も出てきています。社会福祉協議会としては、引き続きそういった活動を支援しつつ、それを大会の際にどのように若い方たちにつなげていこうかと考えています。

それから、車椅子についてですが、社会福祉協議会には大変多くの車椅子をご寄贈いただいています。そういった中で、最近外国人の来街者が多くなっており、移動に困っているというお声を聞くことが多くなっていますので、協議会としてはご寄贈による車椅子を何とか有効活用できないかと考えています。

【座長】

ありがとうございます。

回答の中で、健康ポイントについて、現在、新宿区の実践はどのようなものかというご質問があります。その辺りを事務局から少しご説明いただければと思います。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ボランティア活動へのポイント付与が新たに健康ポイント等へ拡大するとの点についてご質問をいただきました。この健康ポイントという事業ですが、平成30年度、31年度については実験的に実施して、平成32年度から本格実施するという事業であり、例えば、歩いて貯めるようなウォーキングポイントや、健診の受診や健康イベントの参加などでポイントを貯めて、それを景品に交換できるというようなポイント事業を開始します。

こちらについては、介護支援ボランティアポイントとの統合は今のところ予定されておらず、統合の可否も含めて検討している段階です。大会のボランティア活動についても対象にするかどうかについては、今後、制度趣旨等を踏まえながら検討していく必要があると考えています。

【座長】

ありがとうございます。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿区障害者団体連絡協議会からの委員の回答です。団体の強みについては、区内小中学校などでの総合学習を活用した障害者教育を推進していること、高校・大学・専門学校などでの障害者の理解・啓発活動をされていること、イベントなどで障害者の理解・啓発活動を行っていることなどを挙げています。

大会を契機とした取組みについては、ユニバーサルデザインのまちづくりを始めとしていくつか挙げていますので、委員からこの点について具体的にご説明いただければと思います。

【委員】

私どもの団体では、今現在、新宿区社会福祉協議会等と連携し、区内の小中学生を対象とした総合学習の中での車椅子体験や、障害者の理解・啓発に関わるような福祉教育などに取り組

んでいます。また、新宿区内の地下自由通路などの開発において、車椅子がスムーズに動けるよう実際に視察を行い、当事者の方々からの意見を提示するといったことにも参画させていただいています。

特に、大会に向けて力を入れていきたいことというのは、車椅子などの見える障害を持っているの方々については、どのように支援をしていけばいいかということにすぐ気づいていただけますが、発達障害や精神障害、知的障害などの見えない障害を抱えるの方々への支援をどのように行っていくか、差別や排除につながらないような取組みをどのような形で行っていくかということに力を入れています。

ハード面については大会に向けてかなり進んできていますが、ソフト面において、心のバリアフリーの推進ということは新宿区でも取り組んでいます、実際にはまだまだ周知が行き渡っているものでもございませんので、そういったことへの理解を広める活動をどのような形で行っていくかということに力を入れています。

NHKなどでは、発達障害に対しての合理的配慮を行っている番組を通年で放送しています。先日のテーマは、新宿区内の中学校で、文字を読んだり書いたりすることができないなどの学習障害がある方に対して、タブレット端末などを使って授業を受けさせるというような放送がございました。そのような形で配慮をしていただけると、その方も同じように教育を受けることができます。そういったことを小中学校の児童・生徒を通じて教えていくということも行っています。

東京2020大会では多様性と調和というコンセプトが掲げられています。多様性を認めていくことで、心のバリアフリーがどんどん取り払われていくのではないかとことを期待しています。

【座長】

ありがとうございました。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿区幼稚園PTA連合会からの委員の回答で、大会を契機とした取組みということに関しては、ボランティアマインドや障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚といったものが大会を過ぎても子どもたちの心に芽生え、残っていけばいいということです。PTAとしては、園との連携の中でお手伝いをしていきたいとご回答いただいています。

そして、委員個人としては、子どもたちと体験し、子どもたちが実際に感じるということが重要だということを痛感したということですが、こういった思いに至った理由などについて、少しお話しいただければと思います。

【委員】

まず、団体の活動について、補足させてください。新宿区幼稚園PTA連合会としては、教育委員会事務局教育支援課の方々のお力添えをいただきながら、区立幼稚園14園で情報交換の場として会を開催したり、研修会を行ったりしています。

子どもたちが実際に感じるということが重要だということを感じた経緯ですが、教育指導課の方と各幼稚園で連携をとり、ボッチャ体験を各園で実施しています。ボッチャについては、まだ体験したという子が少なく、通っている幼稚園で体験の機会を設けてくださったので、そうしたスポーツを子どもたちがとても身近に感じられたという印象を持ちました。

また、幼稚園の中だけだと限られた時間になりますが、土日などでも体験会が開催されれば、子どもだけでなくその家族にも波及していくと思います。東京2020大会の開催が決まってから、スポーツに取り組むようになった子どももいるようです。そうしたお話を聞いて、自分としても大会に向けて気持ちを強くしました。また、ボランティアにも参加していきたいと感じています。

【座長】

ありがとうございます。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿区小学校PTA連合会からの委員の回答ですが、様々な具体的な取組みを挙げられています。中でも、子どもたちの競技観戦ということについて取組みを進められているようですので、こちらについてご説明をいただけますでしょうか。

【委員】

小学校PTA連合会として大会に向けて思っていることは、子どもたちが夢を持って、それをかなえるための努力をする心を育むということを保護者として行っていきたいと思っています。それは、日韓合同ワールドカップを生で観戦した小学生がどれだけいたのだろうかという課題意識から始まりました。我々は、新宿区の全ての小学生に東京2020オリンピック・パラリンピックを生で見せるということを一つの目標にしています。そして、その実現度が一番高い競技がマラソンではないかということで、「ドリームチアプロジェクト」を進めています。現在、運用検証等を行っているところですが、どこに話を通せば何が進むのかというのが全く見えない中で、まずできることは実績をつくることではないかと考え、2018年1月の新宿シティハーフマラソンで沿道応援のテストをさせてほしいということを新宿未来創造財団の方にお問い合わせをしたところ快諾をいただきました。これを行った結果、一体どんなことが起きるのか、そして、その応援を受けた選手が子どもの声援によってどれだけ力づけられたかということは何かしらの形で発信していただくことで、2020年に向けて子どもたちをオリンピックに向けさせたいというのがこの取組みの趣旨です。

【座長】

ありがとうございます。

1月の結果をまたぜひご報告いただければと思います。

確かに、全体のスケジュールや組織体系が見えづらい、企画などをどのように通していけばいいかわからないといったような不安を受けている方もいらっしゃると思います。この点に関して、先ほどから話が出ている部分もありますが、もう一度事務局からご説明をいただけますでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

全体の枠組みが見えない中で具体的な事業を考えるというのはなかなか難しいところがあると思っています。当課としても、一番大きな制約は組織委員会との調整ではないかと感じていますが、事業案などがあれば是非我々のほうにご連絡いただいて、調整等をさせていただきたいと思います。

また、大会における観戦ということについても、組織委員会に確認しているところですが、現在、組織委員会の中では観戦について検討する組織がまだ立ち上がっていないという段階ということであり、具体化に向けた検討がなかなか進められない状況です。その点については歯がゆく思っているかと思いますが、実現に向けてどういった課題があって、どういったことをクリアしていかないといけないかということをお私どもも一緒に考えていきたいと思えます。

【座長】

ありがとうございます。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

こちらは、新宿区中学校PTA協議会からの委員のものです。大会を契機とした取組みということについては、学校・部活単位でボランティアに参加できるということを挙げていただいています。これを実現するための具体的な取組みについては、特に今はないということです。

それから、教職員の負担が増えるということをお不安材料として挙げていらっしゃいます。そして、組織としての方向性が全く見えてない状況ということも挙げていただいています。子どもたちにボランティア経験を積ませたいという一方で、先生方の負担になるのではないかとお思いもあるということで、この点について何か補足があればぜひお伺いしたいと思えます。

【委員】

まず、新宿区中学校PTA協議会は区内の中学校10校と養護学校1校の計11校で活動しています。月1で理事会を開いていますが、中学生ともなると子どもたちのために何かをするということがなかなか見えてきませんので、こういう形で挙げさせていただきました。どうしても部活単位での活動が中心になると思えますが、そうしますと、やはりある程度限られた子どもたちになってしまいます。それから、今、中学校の教員は小学校や高校に比べて1週間の勤務時間が一番長く、私たちが何かを提案することによって、先生方に負担が掛かるという不安が私たちの中には多くあります。かといって、地域で色々子どもたちのためにやってくさっている活動に出ていくとなると、中学生ともなるとそこも難しく、逆に、こんな感じで活動してみたらいいのではないかとおようなご提案をいただけたほうが動きやすいようにも感じています。こういったことを今考えているところです。

【座長】

ありがとうございました。

何かこちら側から提案できるような形になればいいということです。

先ほど、新宿区小学校PTA連合会の取組みのご紹介もございましたので、そういったこと

が、何か動き出すきっかけになるかもしれないと感じていますので、今後こういった場を利用していただければと思います。

それでは、次の委員の回答に入りたいと思います。

次からは、区の審議会委員のご回答であり、それぞれ主に自由意見をいただいています。もし、委員から補足があればご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

私は、産業振興会議に出っていますが、事務局である産業振興課も交えて今色々話していることは、大会後にリピーターになってもらう人たちをどのように増やしていくかということです。新宿区の良さというものが、我々としてもなかなか分かっていないところがあるので、それぞれ考えを持ち合って、今後どのように増やしていくかということを話しています。

また、先日、長野の諏訪にあるゲストハウスを見に行ってきましたが、もともとある古民家などを利用して、その土地らしさというものを出して、リピーターをたくさん増やしていました。例えば、新宿区の中でゲストハウスといったものがないかという話も今出ています。

【委員】

私は、幼稚園児や小学生の子どもを持つ親として、大会の際に人が多く集まるということで安全面が気になっています。日本はテロに慣れていないと言われていますが、その対策というのは今どうなっているのかをお伺いしたいと思います。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

テロ対策については、新宿区が主体として行うということはなかなか難しいものがありますが、東京都と組織委員会と国とで連携して、治安対策や感染症対策、サイバー攻撃対策といった危機対策を講じているところです。

新宿区といたしましても、メイン会場を有する区でありますので、警視庁や新宿警察、四谷警察、その他関係機関と情報共有をしながら協議をさせていただいている状況です。

【委員】

もう一点お伺いしたいのが、先ほど、イベントの周知やプロモーションが難しいというお話がございました。私どもの文化芸術振興会議でも、新宿フィールドミュージアム・アクション2020の周知徹底がなかなか難しいという話が毎回出ています。新宿観光振興協会のホームページをよく見ますが、例えば、10月に行われたオリンピック1000日前イベントやパラリンピック1000日前イベントなどは協会のホームページに載っておりませんでした。今後もこういったスポーツ関連のイベントは載せないのでしょうか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

6月に開催したフラッグツアーやパラスポーツフェスタ、10月のオリンピック1000日前イベントについては、主な対象が子どもたちだったので、区内小中学校や幼稚園、保育園などを通じて、1人1枚ずつチラシが行き渡るような形で周知いたしました。これらのイベントは対象がはっきりしていましたので、そういった周知の方法をとらせていただいたところです。

今後実施する事業については、事業の対象に合わせ、できるだけたくさんの方に知っていた

だくような方法を検討していきたいと考えておりますので、ホームページの活用も含めて幅広く検討していきます。

【委員】

今の件に関連したご提案です。今ホームページ上にフェイスブックやツイッター、ユーチューブのアイコンがありますが、そのアイコンをクリックしないとそれらの内容が詳しく見ることができない状態です。例えば、渋谷区の観光協会のホームページなどを見ますと、アイコンの表示ではなく埋め込み式、つまりアイコンをクリックしなくてもそのまま内容を見ることができるようになっていきます。つまり、見る側が情報を取りに行かなくても視覚で訴えるようなホームページのつくりになっています。そういったような形式というのは、恐らく簡単にできるかと思っておりますので、その点をご検討いただければと思います。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ただ今のご提案については、新宿観光協会にお伝えさせていただきます。

ウェブの技術は、日々新しいものがどんどん出てきており、プッシュ式でお伝えできるしくみなど、できるだけそういったものを活用しながら周知に努めていきたいと考えています。

【委員】

新宿区には100を超える国籍の住民が住んでおり、その数も4万人を超え、地域住民の11%が外国人です。そういった方々が通訳や案内などのボランティアとして大会で実際に活躍できれば、母国の選手や関係者たちをもてなすこともできるので、外国人ボランティアを積極的に育成し、活用していきましょうということを、まず申し上げたいと思います。

また、日本人と外国人と一緒に活動できるようなイベントを大会開催までの間に準備して、大会で開催時に実現できればいいと思いました。

【座長】

ありがとうございます。

イベントの開催は新宿区独自でもできると思いますが、外国人を通訳として利用するという場合に、区として何か独自にできそうですか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

貴重なご提案ありがとうございます。

新宿区には外国人の方が非常に多く住まわれており、そういったことは新宿区の強みですので、新宿区で独自にボランティアを募集するといったことがあれば、そういった方にご活躍いただくことは可能であると考えています。

こういったイベントについても、ボランティア部会の中で具体的にどういったことができるのかを検討させていただきたいと考えています。

【座長】

ありがとうございます。

では、次の委員はいかがでしょうか。

【委員】

気運醸成のイベントについてですが、やはり子どもたちに夢を与えてくれて、オリンピックというものを身近に経験させていく環境づくりというのは非常に重要だと思います。

そして、本日出席されている三井梨紗子さんの存在も重要です。これまで三井さんはオリンピックに向けてどういう目標をもって、どのような環境で頑張ってきたのか。実際のオリンピックの舞台でどのようなことを体験してきたのか。そういったことはすばらしい財産ですので、皆様がそれぞれに行うイベントに、三井さんに来ていただくことで、色々なことが早く進んでいくのではないかと思います。

さらに、新宿区には現役の選手もいます。例えば、樋口新葉さんは新宿で育ってきた選手です。そういった方々を題材に、新宿区としての盛り上げやサポートができれば、大会の気運醸成につながっていきけるのではないのでしょうか。

水泳では、津久戸小学校を卒業した牧野紘子さんがいます。こういったアスリートの思いを聞くということが、大会の気運醸成に一番有効ではないかと思います。そして、それを受けて、皆でどう盛り上げていこうかと考えていくということが分かりやすいのではないのかとも思います。

現在、イベント等で現役アスリートを起用するには、まずスポンサー企業を通さなければなりません。ですので、自分たちの人脈を駆使して現役アスリートをイベントに呼ぶこととなります。本日、皆様のご意見等を伺って、非常に参考になりました。こんなことは無理だろうと思ってしまうことでも、こういった場で話し合っただけで各団体間で連携すれば十分可能になると思います。今後も、色々なお話を伺えればと思っています。

【座長】

ありがとうございました。

ただいまのお話の中にもありましたが、本日、三井梨紗子さんにご出席いただいています。

三井さんをご存知のとおり特別アドバイザーという形で本協議会に加わっていただいています。また、リオデジャネイロ2016大会ではシンクロナイズドスイミングで銅メダルを獲得されていらっしゃると思います。一流選手としてオリンピックに関わられてきた経験は非常に重要なものだと思います。

今回は、三井さんにご挨拶も兼ねて、東京2020大会に向けた思いや、本協議会にご参加いただいた感想などをお話しいただきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【三井特別アドバイザー】

ご紹介いただきました三井梨紗子です。

本日はこのような会議に出席させていただいて、皆様の色々な貴重なご意見を聞いたことで、私自身もアスリートとしてどういうことができるのかを考える、とても良い機会になりました。まず、感謝を申し上げます。

私自身は、ロンドンオリンピックとリオオリンピックに出場しましたが、ロンドンオリンピックとリオオリンピックの雰囲気はそれぞれ違うものがありました。リオオリンピックの場合、国民性もあり、盛り上げるという点についてはとても良かったのですが、逆の部分もありまし

た。例えば、寝るときに周りが騒がしい環境で少し困ったり、街中で道を聞く際にも英語を話せる人が少なかったりということがありました。英語については、東京でも同じことが言えると思います。大会の際には、海外の選手が観光することも多いですし、もちろん、合宿のために来ることもあると思います。ですので、語学面に不安を持っていても、そういった場面でサポートしていただいたら、海外の選手は喜びます。

海外の皆様は、東京での大会開催に期待をしています。4年前の時点で既に、観光で行くならどこがいいと聞かれたぐらいで、東京へ行くこと自体はすごくポジティブに考えています。

ですので、私自身、新宿区出身ですが、新宿区の中でもこういうところに観光したほうがいいということを紹介できるよう勉強をしなければいけませんし、新宿区がどんなことに取り組んでいるのかということも発信できたらいいと思っています。

それから、今、SNSが非常に活発に使われています。写真を撮るスポットが各地にあり、写真を撮ることに抵抗がなくなってきていて、写真をたくさん撮って共有するようになりました。海外の選手も色々なものを撮影したいと言っていたので、そういうスポットがもし新宿区あるのであれば、例えば現役のアスリートがそこで撮影して、自身のSNSに掲載するというような展開も考えられます。そういう写真のスポットって非常にいいなと思っていて、自由時間がない選手たちでも、写真を撮るぐらいならできます。

大会に参加するだけでなく、大会を盛り上げたいと思っているアスリートはたくさんいますが、そのために自分たちに何ができるのかが正直分からなくて、アスリート仲間とこういうことしようと話していても、自分たちの力だけではどうにもならないことはたくさんあります。ですので、お声掛けいただければ大変有難いです。

私自身も現在、日本オリンピック委員会のほうに所属することになりました。オリンピックに向けて日本全体がどういう動きをしているかといったことを扱う会議にも参加させていただく機会ができると思いますので、何かご意見できればと思います。

東京2020大会に向けて私に何かできることがありましたら、積極的に協力していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

【座長】

ありがとうございました。

本日は、各委員からのアンケートを紹介するという形で、お互いに色々と議論することはできませんでしたが、このアンケートを通じて、現時点ではなかなか具体的な取組みまでは提案しづらいというようなこと、あるいは単独では動きづらいというようなことも見えてきたかと思えます。

大会の開催まで、あと2年半しかありません。具体的な動きがとりづらいこととは思いますが、全員一丸となって大会に向けて盛り上げていかなければならないと感じています。

そのためにも、こうした協議会の場を通じて全体で情報共有をするということはもちろん、各団体間で自由に、もっと踏み込んで話をさせていただくということも必要ではないかと思えます。そういう場として、東京2020大会普及啓発部会、ボランティア部会という2つの部会がご

ざいますので、その部会の中で、それぞれの持つ思いあるいは考えを表明していただき、そしてそれを昇華できるような仕組みを全体で検討していくことをこれから進めていきたいと思っています。

ですので、今後はもっと部会を有効活用しようということを申し上げまして、最後のまとめの言葉とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

では、これもちまして、第2回新宿区東京2020大会区民協議会を閉会します。本日は長時間にわたりましてご審議をいただき、ありがとうございました。

<閉会>